

3. 遺物

土器を中心に多くの遺物が出土しています。これらの遺物は大半が平安時代（9世紀から10世紀前半ころ）のもので、それ以外の遺物はごくわずかです。

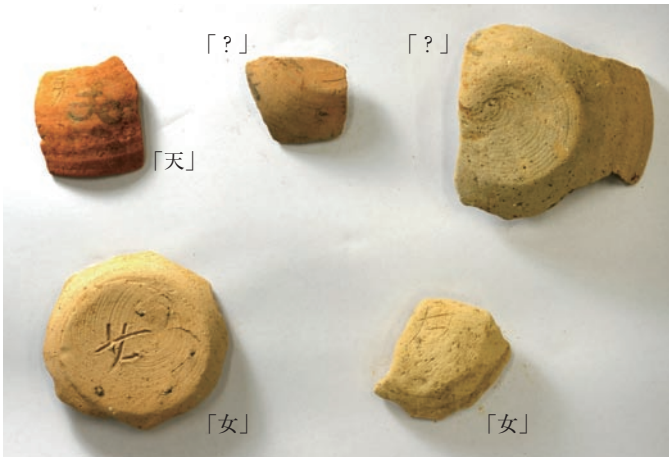
土器 最も多く出土しているのは土師器で、次いで須恵器、^{こくしよくどき}黒色土器があります。数は少ないですが^{りょくゆうとうき}緑釉陶器や^{かいゆうとうき}灰釉陶器といった県外で生産された土器が見られます。また、土師器や須恵器の中には関東地方（特に群馬県）と関わりのある土器が見つかっていて、当時の交流関係を窺うことができます。

鉄製品 馬具（轡）をはじめ、^{てつせいつむ}鉄製紡錘、^{てつぞく}鉄鏃のほか種別不明の鉄製品が多く出土しています。特に平安時代の馬具は新潟県内で初例となります。また、^{わんがたかじさい}椀形鍛冶滓や^{ふいご}轆の^{はぐち}羽口など鍛冶に関わる遺物も出土していて、集落内での鍛冶行為が想定できます。

その他 このほか石製の^{ようたいぐ}腰帶具や^{どすい}土錘が出土しています。



出土土器



墨書土器と刻書土器



出土鉄製品



腰帶具（石帯：丸轡） ※実物大

4. まとめ

今回の金屋遺跡の調査では、緑釉陶器や灰釉陶器、石製腰帶具、鉄製品など優品のほか、鍛冶や製糸などの工業に関わる遺物も出土しました。今後は過去の調査成果も踏まえ、金屋遺跡がどのような性格をもった集落であったかを解明することが課題となります。

かなや 南魚沼市 金屋遺跡第4次調査出土品展示会資料

令和2年11月3日（火）～7日（土）

国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所

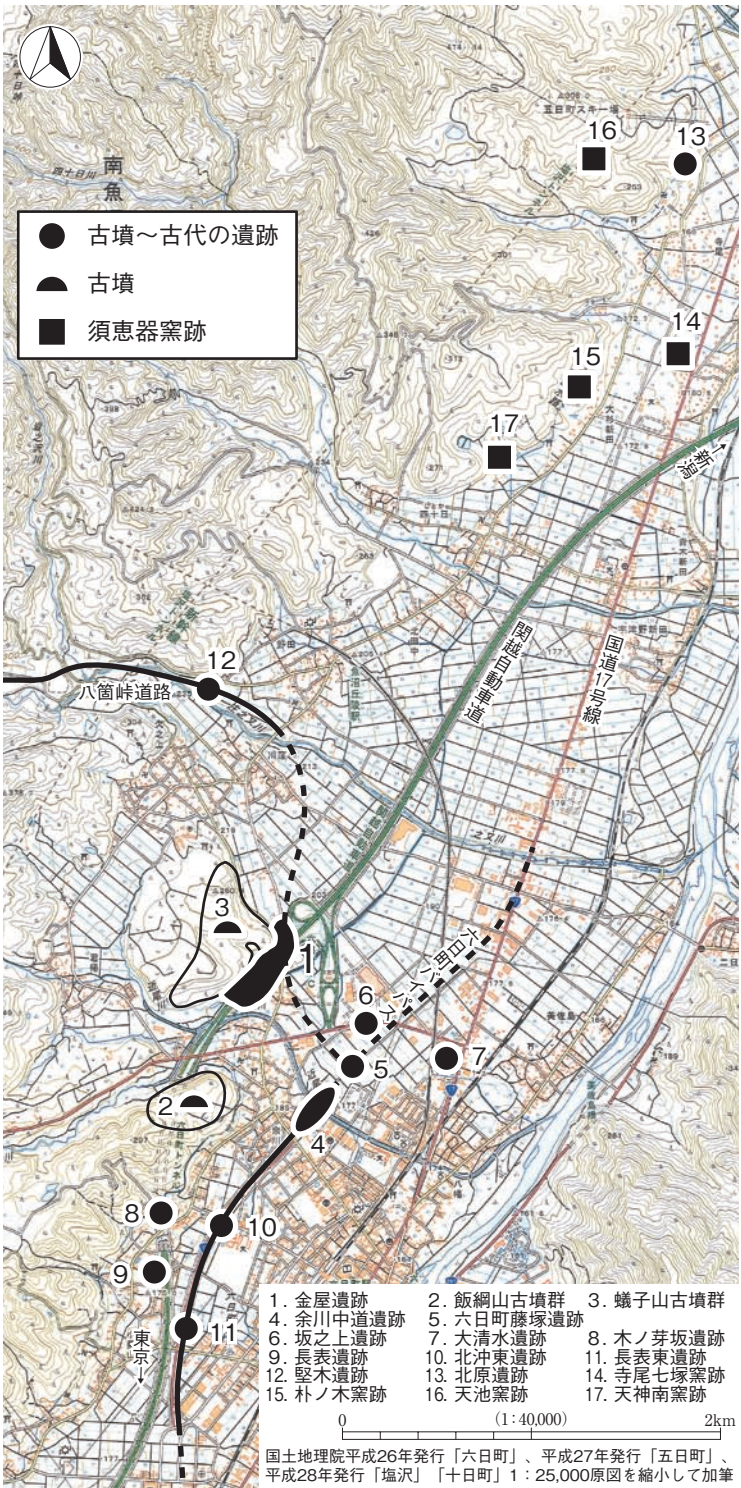
公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

株式会社大石組

1. 調査の概要

金屋遺跡は魚沼丘陵の東側に位置する独立丘陵の蟻子山東裾部、庄之又川によって形成された扇状地上に立地します。関越自動車道や国道253号八箇峠道路などの建設に伴いこれまでに3回の発掘調査が行われ、縄文時代から平安時代まで断続的に人々が生活していた痕跡が見つかっています。特に平安時代は、^{たてあな}竪穴建物や^{ほったてばしら}掘立柱建物などが見つかった集落域や、畑などの生産域が確認されていて、遺物も須恵器や土師器を中心に大量に出土していて、金屋遺跡が最も盛行した時代と言えます。

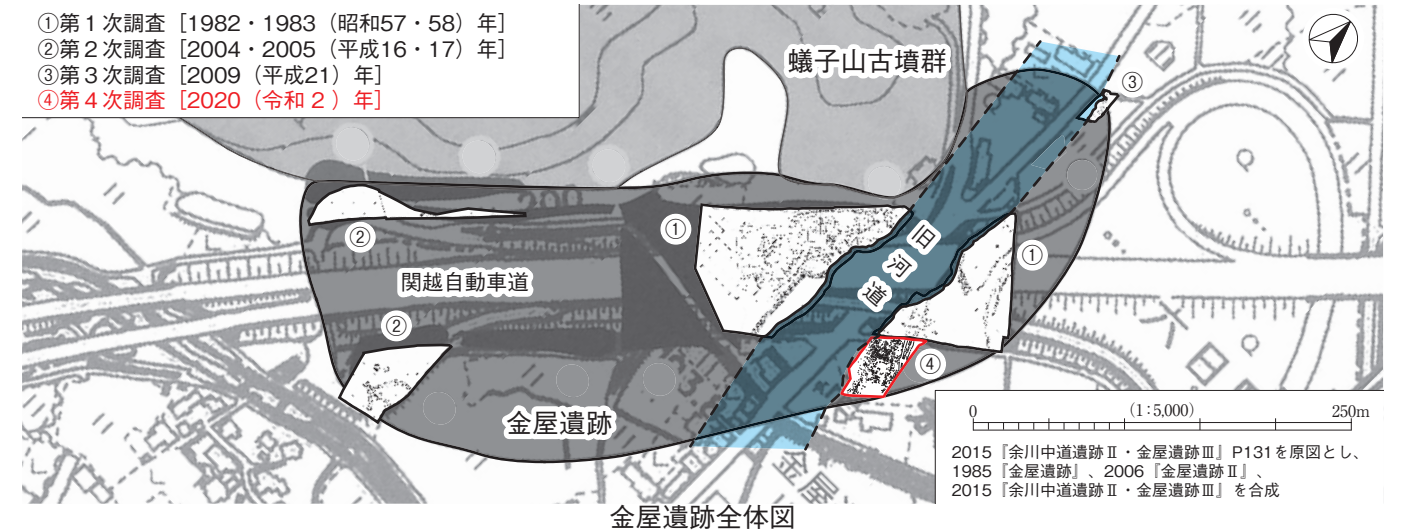
令和2年度の調査は国道253号八箇峠道路建設に伴うもので、通算で4回目の調査になります。調査面積は約1,100㎡で、現在の地表面より約1～2.5m下から平安時代（9世紀から10世紀前半ころ）の集落跡が見つかりました。上層（Ⅵa層）と下層（Ⅵb層）の2層の遺物包含層（いずれも平安時代）が確認され、現在は上層の遺構を調査しています。今年度の調査は、上層の調査を完了させた段階で終了し、調査区の埋め戻しを行います。残りの下層調査は来年度実施する予定です。



金屋遺跡と周辺の遺跡

2. 遺 構

調査区は北側が標高が高く、旧河道が存在する西側や南側に向けてゆるやかに傾斜しています。上層では柱穴を中心に溝や土坑などが見つかっていて、標高の高い北側に集中する様子が認められます。竪穴建物や掘立柱建物は今の所確認できていませんが、柱穴が多数見つかることから複数の掘立柱建物が存在していたものと考えられます。下層の遺構はまだ全容を把握できていませんが、やはり柱穴や溝が見つかります。また調査区南西側の標高が最も低くなる地点では、礫層の上面に土器を廃棄したような遺構（SX64）も見つかっています。残りの調査期間で建物の検討や、下層遺構の状況を調べる予定です。

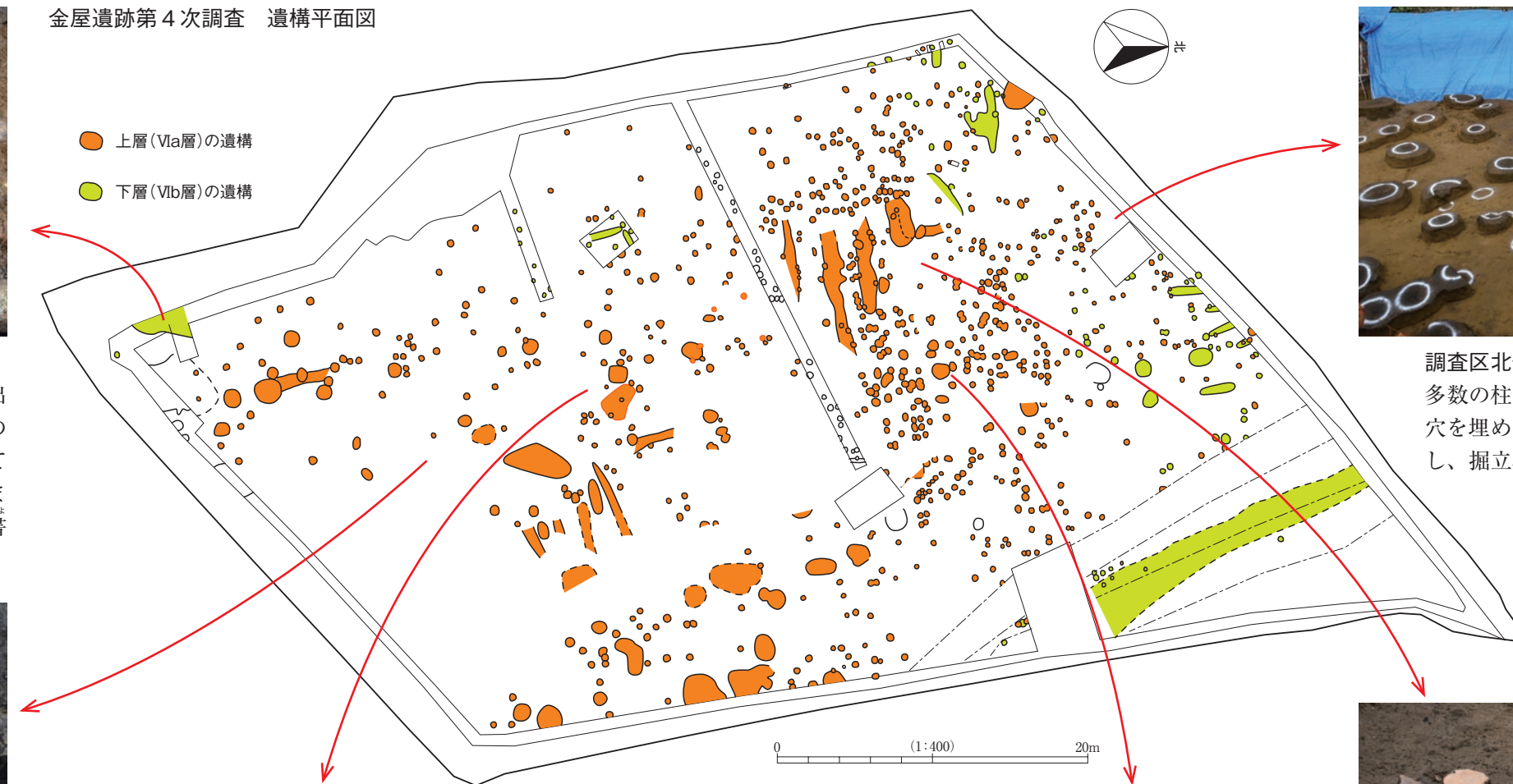


土器集中遺構（SX64）遺物出土状況 東から
礫の上面に土師器の無台碗を主体とした土器片が出土しました。多くは破片ですが、土師器の無台碗のいくつかは底部を上に向けて伏せた状態で置かれていました。土器を廃棄した痕跡と考えられます。また、出土した土器の中には墨で文字を書いた「墨書土器」も見つかっています。



土器集中遺構（SX159）遺物出土状況 南から
上層の包含層を掘り下げていたところ、礫と一緒に土器が集中して出土しました。SX64と同じく土器を廃棄した痕跡と考えられます。穴を掘っている様子はなく、たまたまその場にあった礫のそばに土器を集中して捨てたものと思われる。

金屋遺跡第4次調査 遺構平面図



調査区北側遺構検出状況 南から
多数の柱穴が見つかりました。穴の並び方や穴を埋めている土の状況や穴の深さなど検討し、掘立柱建物を探します。



包含層遺物出土状況 東から
包含層からは様々な種類の土器などが出土しますが、多くは割れています。



腰帶具（石帯：丸軀）出土状況 北から
石製の腰帶具（ベルトの装飾品）です。平安時代では官吏（今で言う役人）や貴族が付けていました。



須恵器・鉄製品出土状況 南東から
須恵器の壺底部と鉄製品の出土状況です。鉄製品は馬具の一部と考えられます。